

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503163		
法人名	株式会社ケンセイ舎		
事業所名	グループホームわが家		
所在地	福山市引野町北1丁目10番8号		
自己評価作成日	平成27年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html">http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台27-17-101		
訪問調査日	平成27年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

残された機能をできる限り維持できるようケアをしていく。笑顔でゆとりのあるケアに努める。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街に位置し、建物は広い敷地を活かした平屋づくりである。大きな窓から見渡せる中庭の様子は、季節の移ろいを感じるとともに、頻繁に小鳥が飛来し利用者を和ませている。利用者は、家庭的な雰囲気の中で穏やかに生活し、花や野菜作りに参加している。収穫したサツマイモや柿等を食材として、近所へおすそわけをするなど地域との交流を行っている。職員は、利用者の意志を尊重するための見守りや支援に努めている。また、毎日の散歩・ラジオ体操・踊りを通して利用者の持っている力の維持に努めている。食事は全て手作りで、利用者の満足度が高い。家族の要望に耳を傾け、真摯に対応するとともに月に一度、家族に近況を報告している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念として「家庭的な雰囲気の中で地域との交流」をあげて取り組んでいる。	玄関に掲示するとともに月に一度の合同カンファレンスにおいて確認し、理念の共有に努めている。また、日常のケアの中で管理者等が声をかけ、実施につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り清掃活動や盆踊り等に参加し地域の人々との交流に努めています。	町内会に加わり、清掃活動や近くの公園で行われる盆踊りに職員が参加している。事業所の催しには地域からも参加があり、そうめん流し等を共に楽しんでいる。また、中学生の職場体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流会において認知症の予防や理解を深めることを講習し、地域との核になれるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出来るだけ2ヶ月に1回町内会長・民生委員・地域住民ご家族ご家族の参加を呼びかけ開催し、取り組みの報告および意見を聞いている。	東部支所・包括支援センター・民生委員の参加を得て開催し、利用者の近況と行事報告や認知症の徘徊について勉強会などを行っている。	運営のさらなる質の向上を図るため、回数を増すとともに双方向の意見交換の場となるような取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市介護保険課福祉課と連絡を密に取り小地域ネットワーク作りにも積極的に参加している。	管理者が窓口となり、ケアマネも状況に応じて日常的に連携している。包括支援センターが定期的実施する研修会等に参加し、情報の共有をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアのための実践に努めている。	年に1度の研修会およびカンファレンスにおいて、身体拘束について学び合い、情報を共有するとともに、日々のケアに活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常ケアの中で身体的精神的虐待がないよう気を配っている。疑問に思われることがあれば話しあって改善している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名成年後見人制度を利用されています。担当者の弁護士家族様との連絡を取り合い支援します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に内容を説明し理解納得していただくまでお答えします。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の悩み苦情の相談は傾聴しています。相談の内容により家族の方にも同席していただきます。また運営推進会議への参加も呼びかけています。	日常のケア及び家族の訪問時に意見等を聴くことに努めている。把握した意見は散歩やカラオケの実施等に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一ヶ月に一度のスタッフ合同会議に提案意見を受けています。	月に一度の合同カンファレンスで、職員の提案を聴く機会を設けている。出された意見等は、利用者の血圧測定の時間変更などに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの個性を尊重しよい所を伸ばしていけるような環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は順次スタッフによる研修を計画 外部研修をも積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小地域ネットワークに参加し勉強会を続けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話の可能性な方とは何度でも本人の訴えをお聞きして大丈夫であることを具体的にお答えするように努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方とは今後の経過の大変であった事柄をうけとめて安心していただけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談時に生活状況を聞き当施設のサービス以外希望されることがあれば利用するようにしていきたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	月2回全員で歌を歌ったり毎日ラジオ体操をしたり家事・手作業を一緒に行うときにお話する中で考えや生きる姿勢など学んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所された際には状況をお話し、ともに考えるようにしています。状況の変動がある時は、報告連絡をしご希望を伺い安心していただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問は利用者の大事な関係として支援に努めています。	親戚や友人が来所した際には、関係が途切れないよう声かけをしている。希望があれば2ヶ月に一度、地域の理容院に出かけ、新たな馴染みの関係を作るなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ作業をする際、職員が間に入り自然にふれあえ、会話を楽しめるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後は特にこちらからは連絡していませんが、ご家族様から連絡いただいたときは、ご様子を伺っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のケアの中で思いや意向を汲みとっています。困難な場合は表情や顔色などで意思に沿うようにしています。	日常のケアの中で利用者の言動や何気ないしぐさ等から把握するよう努めている。困難な場合は家族等から把握し、本人本位に検討・支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集のため質問などの工夫し、またご家族の面会時にお聞きし、より詳しくこれまでの暮らし方が伺えるよう努力しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心と身体の変化の気持ちを介護日誌に記入し、翌月のスタッフの申し送りで「医療的・介護的生活全般総合的に把握するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフは本人の様子を観察し毎朝の申し送りで夜勤者から日勤者へ伝達意見交換しサービスを実践し家族に経過報告して意見を頂き介護計画に取り入れています。	利用者・家族の意見等を基に原案を作り、職員間で検討した後ケアマネが作成している。共有のポイントは朱書きにするなどの工夫をしている。モニタリングは3ヶ月ごとに行い、変化がある時は、その都度プランの見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の利用者を全体像が把握しやすいようカルテを整理している。情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付き添いなど家族の方が困難時は支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容院を利用している。また町内会の行事夏祭りに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のある方には入所前に伺い希望に沿うようにしています。当施設の協力医と連携をとりながら健康管理に努めています。	利用者・家族の意向を尊重し、かかりつけ医の受診は家族が行っている。協力医の往診は月に2回、歯科の訪問診療は必要時往診があり、利用者や家族の意向を尊重した対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師・准看護師がいるので、協力医と24時間医療連携をとりながら健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリの提携と退院時の要約を受け取り医師・管理者・ケアマネ・家族・で情報交換を行うなど関係に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針の取り組みに向け家族の意向を聞きながら希望を伺い、沿うように共有するように取りくんでいきます。	利用開始時及び重度化した際に、指針を渡して説明している。看取り経験がありマニュアルを作成している。緊急時には医師及び常駐の看護師と連携し、家族の方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは利用者の急変にそなえて救命救急の訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行っています。火災時は駐車場へ避難。災害時は市の指定場所に速やかに避難できるよう地域との協力体制を呼びかけている。	消防署の指導のもと、年に2回、夜間と昼間を想定して避難訓練等を実施している。地震想定や備蓄等についても検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	守秘義務、そして人格の尊重を指導している。	入室時のノックをはじめ、プライバシーを損ねない声掛けなどの工夫をしている。利用者の思いを傾聴し、言動の否定をしないよう、生活歴を活かした会話や対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションを大切にし何でもいえるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴、体調などを汲み取り無理強いをしないで希望に沿うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	健康管理上常識を外れた事や困られている時はお声掛けしていますが、おしゃれを楽しむように支援しています。散髪は理容院を利用しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は全て手作りのものを召し上がっていただいています。食事が楽しくなるように声掛けしています。	利用者の状態に応じて盛り付けや形態の工夫をしている。本人の力を活かして盆を拭く・下ごしらえに参加する・ホットケーキやたこ焼きを作ったりするなど、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態により対応しています。毎日の水分量のチェック表に記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後口腔ケアしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の能力に応じて支援している。声掛けは5時間を目安にてトイレ誘導している。行動を観察し、パターンを把握して援助し失敗が少なくなっている。	排泄記録を参考にしながら、声かけをすることで排泄の自立支援に努めている。声をかける時のタイミングや音量等にさりげない配慮をしている。夜間は個人の状態に応じて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然に排泄できるよう野菜牛乳水分補給や歩行等運動の声掛けに努めています。4~5日以上便秘の方には協力医の指示のもと薬を服用することもあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず個々に合わせた支援をしている	曜日や時間は決めているが無理強いはずせず個々に沿った支援をしています。ご希望により毎日入浴される方も3名おられます。	午前を基本とし、週に2~3回程度入浴している。本人の希望により、夕方や毎日の入浴等、柔軟に対応している。拒む利用者については、担当の変更や声掛け等工夫しながら、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活を整えるため、日中無理の無い程度に活動を促している。その方に合わせてお昼ねをして頂きます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個々ファイルにしています。用法用量について目的を確認しています。臨時薬が処方されたときなどもスタッフ間での申し送りを介護日誌などで、確認します。口答ノートで伝える。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんだり、編み物縫い物お庭の散歩など楽しまれています。庭掃除、草取り新聞折りなどしながら役割を持った生活を支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい日など穏やかな日は、中庭で過ごし、お買い物に出かけたり季節の花など観賞に出かけたり支援しています。	毎日の散歩、気分転換のドライブや買い物などに誘い、戸外に出かけられるよう日常的に支援している。また、地域行事や初詣、季節ごとの花見、外食などにも出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理能力がないため、施設が立替をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自由に電話が出来る様に支援しています。希望があれば代筆し手紙を出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的な空間の中でお花や季節を感じるものをかざったりして、楽しんでもらっています。	共用空間は広く、温度・音・光等が適切に管理されている。居間や廊下には利用者・職員の作品や花等が置かれ、季節を感じるとともに居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人で、くつろぎたい時はソファで腰掛けられてみんなでいたい時は机のある椅子に腰かけられ思い思いにくつろぎの場所があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族とご本人が確認され慣れ親しんだものを配置工夫されます。	居室は広く風通しが良い。好みの家具や写真等、馴染みのある物が持ち込まれ、穏やかに過ごせるよう、配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りを設置しています。		